

# 大御本尊を根本としてきた創価学会

## 牧口会長指導

▼本尊の中、総与の御本尊と称して、大石寺に伝へられる大御本尊を信じ奉る者が正しい信者である

(牧口常三郎全集一〇一一五)

## 戸田会長指導

▼どこのを拝んでも絶対にだめなのです。弘安二年の十月十二日の大御本尊様から出発したものでなければ、法脈が切れますから、絶対だめなのです

(戸田城聖全集四一三四九)

▼本門戒壇の大御本尊を信じ奉らない者は、すべて謗法として禁じなければならない

(戸田城聖全集五一五六)

## 池田名誉会長指導

▼次の点だけは不動の路線であることを忘れてはならない。それは、

一、三大秘法の大御本尊がいつさいの根本であると拝していくことだ。

二、御法主上人の御もとに日蓮正宗の伝統法義を確実に体していくことだ

(広布と人生を語る三一一七一)

破門後

▼大聖人の出世の本懐である一闇浮提総与の大御本尊が信心の根本であることは、これからも少しも変わらない

▼純真な「信心」の一念で唱えた題目は、即座に大御本尊に通じていく(聖教新聞・平成5年9月19日付)

①御本尊は「胸中の肉団」にあるといいますか?

『日女御前御返事』にある「此の御本尊が胸中の肉団にまします」旨の御教示は、御本仏日蓮大聖人の深い御内証を明かされた部分であり、我々凡夫が自分の胸中を拝んで成仏するなどという意味ではありません。大聖人の御当体である大御本尊に対する正しい信仰によつてのみ、個々の心中にも御本尊が涌現するのです。学会の理屈では、御本尊そのものが不要となってしまいます。

②創価学会では「大御本尊を否定はしない」といいますか?

「受持の対象とはしない」ということは、信仰の対象として放棄したという意味であり、大聖人の出世の本懐である大御本尊の仏様としての意義を否定したことになるのです。

③20年以上も登山参詣せず、大御本尊を直接拝まなくとも功德があつた?

邪宗教となつた創価学会に所属している限り、功德と思われる作用は邪宗特有の魔の通力にすぎません。また学会員の中には心に大御本尊を思い描いて勤行をしていた方もいたでしょう。しかし、今回の会則変更により、創価学会が名実ともに大御本尊から離れた以上、いくら会員が家庭の御本尊を拝んでも功德を積むことはできな

—Q & A —

少しでも不安のある方は、日蓮正宗寺院へお尋ねください。

